



元気っ子

No.267 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

かつて日本は四季がはっきりとした美しい国とされていました。春には桜を眺め、夏には入道雲と青い空にセミの鳴き声、秋は紅葉や彼岸花、冬は雪景色と、季節ごとに人々の心に季節感というものを育んできました。ところが、先月の元気っ子でも書かせて頂いたように千葉では大荒れの台風が甚大な被害をもたらしたと思えば、今度は長野や福島など関東各地に再び甚大な被害をもたらす台風がやってきました。これまでは10月の末にもなって台風なんて考えられなかったでしょう。秋の彼岸花にしても、毎年お彼岸になると咲いていたものが、今年は彼岸が終わってから満開になっているのを見ました。東南アジアのスコールのようなゲリラ豪雨も年々当たり前のように降るようになってきているように感じます。「四季が美しい日本」というものはもう過去のものになりつつあるのかもしれませんが、大切な子どもたちにこの「四季の美しさ」を残してあげられるように、今、各々が習慣化してしまっていることを今一度客観的に見直し、環境破壊に歯止めをかけるためのアクションを一つでも心がけてみて下さい。そういった大人の覚悟というものを見せるのも、子どもたちの成長には欠かせない大切なことだと思います。

さて、18日19日と茨城の大宝保育園さんの保育環境セミナーと東京の千代田せいが保育園さんの施設見学に行ってきました。そこで感じたのは「子どもの最善の利益」を尊重する保育の原点は今も昔も変わらないのですが、そこに対するアプローチ、つまり保育の方法や考え方、捉え方というものは日々刻々と進化していったということ。その進化していった部分に対してアンテナをもっていないと保育が時代や環境に順応したものにアップデートされていかないということを感じました。そういう意味でも、今後も日本のトップにある保育園さんとはしっかりと関係を密にし、交流をさせて頂きながら、保育に対するアプローチという部分をしっかりと見直していかないといけないと感じました。ながさわ保育園らしさを大切にしながらも、時代環境に配慮した園作りを目指していきます。

今回の出張研修の中でヒントを頂いて、さっそく園に持ち帰らせて頂いたものではあるのですが、乳児用の砂場を作りました。送迎で保育園の中に入って頂いている保護者の中にはご覧頂いて気付いている方もいらっしゃるかもしれませんが、園舎二階に上がる階段の踊り場から園庭を見下ろす場所に設置してあります。これは園庭を持たない千代田せいが保育園さんが園舎の屋上に設置していたものを参考にさせて頂きました。これにより、大きいお兄さんお姉さんが園庭で遊ぶ姿を見ながら、0歳1歳の子どもたちが砂場で遊ぶことで空間的な関わりが生まれ、異年齢集団保育のメリットが発揮されます。是非そんな子どもたちの姿も保護者の皆さまにご覧頂くような機会をご用意できたらと考えています。

11月に入って、朝晩の冷え込みにより風邪をひきやすい時期になってきました。お子さんの体調管理には十分に気を配って頂きますよう宜しくお願い致します。

